

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4090500069		
法人名	医療法人 かん養生クリニック		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区蛭田若園3丁目4番10号 (電話) 093 - 951 - 6979		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月9日	評価確定日	平成21年11月18日

【情報提供票より】(平成21年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建て		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(5万・6万・7万)円	その他の経費(月額)	(水光熱費)18,800円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(450,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	一月 40,000 円		欠食 一食400円

(4) 利用者の概要 (8月24日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.4 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かん養生クリニック・木村歯科医院・北九州総合病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「こもれび」は、周辺に緑が残る閑静な住宅街の中にある。昨年、隣接して同法人の「こもれび」が開設されており、合同でのレクレーションを企画したり、お互いが行き来することで、気分転換や楽しみごとの共有が図られている。職員は入居者の方々が日々の暮らしの中に喜びを見つけ、自分らしく安らぎのある生活が過ごせるよう取り組んでおり、入居者を中心としたゆっくと流れる時間を支援している。母体となる医療法人「かん養生クリニック」は、北九州市の「ものわすれ外来」協力医療機関でもあり、専門医・看護師・理学療法士等の専門職による日々の健康管理や緊急時の対応も充実しており、本人・家族の安心にもなっている。開設して3年目を迎え、課題も明確になってきており、今後の取り組みが楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、理念について職員全員で検討し、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を追加している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回からの継続課題以外に、生活支援についての課題等も含め、評価結果とあわせて検討し、サービスの向上につなげていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議には、家族・町内会長・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員等の出席があり、法人理事長も同席している。状況報告等が行われ、意見交換や助言を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	本人・家族が要望や意見を伝えやすい関係づくりや雰囲気づくりを心がけている。入居時に公的な苦情相談窓口やご意見箱の利用について説明し、意見や苦情があった場合には、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日々の散歩等で挨拶を心がけていくうちに、少しずつ顔なじみとなり、ホームへ訪れてくれたり、草刈りを手伝ってくれる地域の方もいる。地域行事が年々少なくなっているが、夏祭りや衛生活動に参加している。今後はホームでの行事についても、地域の方々への案内を積極的に行っていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	職員一同で意見を出し合い創られた目標を理念としており、前回評価以降、「地域の方たちとの交流・ふれあいを大切に訪問しやすいグループホームを目指します。」という地域密着型サービスの意義を踏まえた内容が追加されている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	地域密着型サービスとしての理念の追加について、職員一同で話し合い作成されており、理念について再度確認し、共有が図られた事も大きな収穫となった。日々の支援が理念に基づくものとなるよう職員全員で認識し、実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	日々の散歩等で挨拶を心がけていくうちに、少しずつ顔なじみとなり、ホームへ訪れてくれたり、周辺の草刈りを手伝ってくれる地域の方もいる。地域行事が年々少なくなっているが、夏祭りや衛生活動に参加している。今後はホームでの行事についても、地域の方々への案内を積極的に行っていきたいと考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価を実施する意義を理解し、日々のケアの確認や振り返りの機会として活用しており、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議には、家族・町内会長・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員等の出席があり、法人理事長も同席している。状況報告等が行われ、意見交換や助言を得ている。		運営推進会議の内容の工夫やメンバー構成の多様化により、日常的な地域とのかかわりや、災害時の協力体制の構築等、地域との交流を積極的に働きかける機会として、更なる充実が望まれる。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	北九州市の担当者や地域包括支援センター職員より、グループホーム運営についての助言を得たり、情報の共有を行なっている。地域包括支援センター主催の「グループホームの集い」では、職員同士の勉強会や話し合いに参加でき、有意義な交流となっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、成年後見制度を活用している方がおり、研修の機会を確保し、職員の理解を深めている。家族からの相談等があった場合には、内容に応じた説明や情報提供を行なっている。今後は、地域に向けての情報発信等にも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来訪も多く、入居者の方々の穏やかな表情が、ホームでの暮らしぶりを表している。法人として毎月「かん養生クリニック新聞」を発行し、グループホームとしても日々の暮らしぶりを写真とともに掲載している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	本人・家族が要望や意見を伝えやすい関係づくりや雰囲気づくりを心がけている。入居時に公的な苦情相談窓口やご意見箱の利用について説明し、意見や苦情があった場合には、迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の希望や自己実現の機会を保障するためにも、法人内での異動が行なわれることもあるが、必要最小限となるよう配慮している。入居者と職員の馴染みの関係への配慮として、引き継ぎ期間を十分に取るなどの配慮が行なわれている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、特に制限は設けていない。個々の能力ややる気を重視しており、職員がお互いを尊重し、得意分野が業務に活かされ、充実した気持ちで勤務できるよう心がけている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	理念の中で「お一人お一人の意見を最大に尊重し尊厳を守ります。」と掲げており、理念の共有・実践が人権教育にもつながっている。高齢者虐待防止や身体拘束についてもミーティング等において確認している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新規採用時の研修については、経験等にあわせて期間や内容を変更している。事業所として毎月テーマを決めて勉強会を実施している。外部研修に参加しやすいよう勤務時間等に配慮し、費用についても支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会や地域包括支援センター主催の「グループホームの集い」等において、相互訪問や勉強会参加等の交流があり、有意義な参加となっている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅への訪問やホームへ来訪してもらうなど、本人・家族との話し合いを行い、要望や不安等の情報収集を行っている。一人ひとりにあわせて、段階的にサービスを開始するなど、柔軟な支援に努め、安心して入居できるよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、やすらぎを感じ笑顔で過ごせるようコミュニケーションの機会を大切に、趣味や特技と一緒に楽しんだり、教わったりする事で支えあう関係づくりが行なわれている。生活の知恵や唄など、教えてもらう事も多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用しながら、本人・家族の思いや意向が、ホームでの日々の暮らしに反映されるよう、何気ない会話や行動から把握するよう努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切にしながら、アセスメントを活用し担当者会議等にて本人本位の計画となるよう検討している。在宅時のケアマネージャーや医療関係者等の意見も参考にし、計画に反映している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	各担当者との話し合いやケース記録での気づきを参考に、月1回のモニタリングを行なっている。新たな要望や状況の変化があれば直ちに計画の見直しを提案し、職員全員で検討している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療連携による健康管理や緊急時の対応、通院介助、入院時の訪問等、医療に関する支援は可能な限り支援している。買い物や美容院への同行等にも柔軟な対応がなされている。今後は、地域の高齢者への支援に取り組んでいきたいと考えている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向を大切にしながら、協力医療機関も含め適切な医療が受けられるよう支援している。専門医である理事長により定期的な往診が行なわれ、看護師・理学療法士による健康管理支援や状況把握等が行われている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期に向けた対応指針を示し、家族の同意を得ている。現在対象事例はないが、家族の希望の把握に向けてアンケート調査を行なっている。終末期に向けては、家族との話し合いを重ね、方針を共有していく意向である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々の生活の中で、一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に努めている。個人情報の取り扱いについても充分配慮し、法令遵守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ある程度の一日のスケジュールは設定されているが、一人ひとりのペースやライフスタイルにあわせて、出来る限り希望に添えるよう取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	広いリビングから対面式のキッチンへと続き、調理の進行が伝わってくる。テーブル拭きや配膳の準備、調理や後片付け等、個々にあわせた参加がある。入居者・職員は同じテーブルを囲み、		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には隔日での入浴となるが、希望や状況に可能な限り柔軟に対応できるよう努めている。入浴を拒否される方には無理強いとならないよう、本人のペースを大切にゆっくりと対応しており、安心感を感じてもらえるよう取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物をたたんだり、茶碗を洗ったり、生活の中で個々にあわせた役割を担ってもらい、またその場面づくりへの支援に努めている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や希望にあわせて、散歩等に出掛けている。出来る限り外出の機会を多く持てるように、買い物への同行や家族との外出についても柔軟に支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかけることについての弊害は充分理解しているが、ホーム前の道路は交通量も多く危険を伴うため、安全面への配慮を優先して施錠している。入居者の希望にあわせて職員とともに戸外に出ている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力により、年2回の訓練(総合訓練・地震を想定した訓練)を実施している。スプリンクラーは設置済みとなっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分摂取量を記録し、健康管理につなげている。水分量については一日1000ccを目安としている。毎月体重測定を行い、状況の把握に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	十分な広さを持つリビングには天窓からの光が差し込み、明るい空間をつくり出している。ソファや畳スペースも設けられており、それぞれがくつろげる場所が確保されている。床暖房となっており、快適な空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	広さの異なる3タイプの居室があり、入り口の暖簾や室内のカーテンは個々の好みに合わせたものとなっている。馴染みの物が多く持ち込まれており、その人らしい居室づくりとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			